

臨床研修修了にあたり

臨床研修終了にあたって

歯科総合診療部 高田 佳代子

2014年度臨床研修Aコースで研修歯科医としてお世話になっている、本学44期生の高田佳代子と申します。今回このような原稿を書く機会を与えて頂いたので、1年間の研修生活について振り返ってみたいと思います。

まず私がAコースを選択した理由ですが、私の性格上、まずは一カ所に身を置いてじっくりと知識・技術を身に付けられる環境がいいなと思っていました。学生時代の臨床実習中、同じ診療室内で先輩方がどのような研修を受けているのか間近に見ており、自分の希望する研修生活と一致したのでAコースを選択しました。

今年度Aコースのメンバーは本学出身者10名、他大学出身者が16名。2人1組のペアを組み、主に1時間半枠で診療を行います。私は指導医・藤井教授の元、永沼先生とペアを組み、研修生活がスタートしました。4月に患者さんが19名配当されましたが、初めて山積みのプロトコルを目の前にした時は、免許を手にしたとはいえ、学生実習以来臨床から離れていた私が本当に診療できるのかとても不安になりました。しかし、Aコースでは研修医という立場であっても主治医として患者さんと向き合うことができるので、必死に予習し、初診療を迎えたことを覚えています。診療後は次回どうしたらもっと上手くできるかを同期と話し合ったり、不足していた知識を補う日々でした。ようやく焦らず行える処置が、少しずつ増えてきたかなと思う頃、研修生活も終盤を迎えており、本当に1年間あっという間だなと実感しています。予想外な状況に直面した時も、アシストに付いてくれているペアは意外と冷静な場合が多

く、お互いに助け合いながら沢山のことを勉強できたことは本当に良かったと思っています。

この1年で経験できた症例は数少ないですが、似たような処置であっても口腔内状態によって考慮すべき点は異なり、患者さんごとに最善策を考えられる力が重要で、そしてそれがとても難しいことだと学ぶことができました。まだまだ治療が上手いかずへこむことも多いですが、患者さんから「入れ歯が痛くなくなって美味しくご飯が食べられるようになった」「しっかり噛めるようになった」「見た目が綺麗になって良かった」というお言葉を頂くと、(私は他学部卒業後、本学に編入学したのでとても遠回りしてきましたが…)今こうして歯科診療に携わることができて本当に幸せです。

新年度からは、長年生まれ育った新潟市を離れることになりましたが、この1年間で得た出会いと経験を大切に頑張っていきたいと思います。最後になりましたが、歯科総合診療部の指導医をはじめ、医員・レジデントの先生方、共通研修でお世話になった先生方、同期の先生方、衛生士・看護師のスタッフの皆様には感謝申し上げます。1年間、本当にありがとうございました。



研修歯科医控室にて(筆者、右端)

臨床研修修了にあたり

研修歯科医 永 沼 慎一郎

登院式以降、藤井教授が研修医全体に言い続けてきた言葉が有ります。「研修期間はあっという間に過ぎ去ります。お盆が過ぎると直ぐにジングルベルが聞こえて来てあっという間に年を越します。」この言葉が身にしみて実感するような時期となっていました。

私は新潟大学臨床研修プログラムのAコースで研修させて頂きました。Aコースでは歯科総合診療部において、配当された患者さんに対し治療計画を立案し1年間治療を行なっていくプログラムが中心となります。そのプログラムの中に希望者のみ抽選で新潟県内にある各保健所で1週間、他大学の研修医とペアになって保健所臨床研修を行うことが出来ました。私は幸運な事に抽選で選ばれ新潟市保健所で研修させて頂きました。

本研修では普段は見ることのできない保健所内で行われる様々な業務について講義や見学、体験実習と合わせて、一般市民の方々に向けた講話の資料製作・発表を行ないます。講話では1時間を使い、70~80代の一般市民約30名に対し「お口元気に毎日楽しく」と題し、誤嚥性肺炎やお口の中と入れ歯のお手入れの仕方、嚥下体操などのテーマでお話しさせて頂きました。講話を通し、一般の方々がお口の中や歯科治療などに関心がさほど高く無く、合わせて沢山の疑問を持っている事、時にテレビや雑誌などで見聞きした間違った情報を鵜呑みにされ生活されている事、そして歯科医師が無意識に使っている言葉が如何に通用しないかなど多くの事に気づかされました。この経験から研修期間中は努めて、患者さんに分かりやすく丁寧に説明しようと意識するようになりました。

外部出身者である私は、右も左も分からない状態で新潟大学での研修をスタートし、不安でいっぱいの中必死に頑張ってきました。失敗し凹んだこともありましたが、さすが患者さんから「良くなりました、ありがとう。」と言って頂いたり、診療のポートフォリオのフィードバックで先生に褒められると、日々自分が少しずつでも成長してい

ると実感できる様になりました。今まで出来なかった事が出来るようになる、分からなかった事が分かる様になっていく、それがただただ嬉しかったです。この1年間頑張れたのも指導医であった藤井教授をはじめ、総合診療部の先生方が様々な面で時に優しく、時に厳しくご指導頂けたお陰だと思っています。そして同じAコースの仲間達と侃々諤々症例について話し合えた事、一緒にキャンプに行ったり、新潟まつりでお神輿を担いだり、研修医控え室で他愛もない話で盛り上がった事、その一つ一つが支えであり研修における大切な宝となりました。そしてペアで一年間診療を共にした高田先生には様々な面で助けられました。互いに切磋琢磨し成長出来た事嬉しく思います。この度お世話になった全ての方々に、そしてこの様な素晴らしい経験が出来たこのプログラムに対し心から感謝したいと思います。本当にありがとうございました。



筆者は写真の左上に黒いTシャツを着て写っています。写真は研修医仲間で小旅行をした際に会津、鶴ヶ城の前で撮影。